

マセマティカ（仮）

拝啓

お元気ですか？

あなたがいなくなって早いものでもう半年が経とうとしています。新しい学校はどうか？
もう新しい生活には慣れましたか？ この半年で春と夏が過ぎました。当たり前ですね。でも不思議なことに、この半年の間に私が一体なにをしていたのか思い出すことができません。あなたにはそういうことある？

私はあの日のことが忘れられません。あの日から今日までそのことだけを考えてきたと言ってもいいのかもしれませんが。時々夢をみます。そこには女子高生の形をした二人の少女が現れます。私はそれをみると、あの日のあなたと私をみているような、そんな気持ちになります。

あの日、あなたが私にしたことにどんな意味があるのでしょうか。それが知りたくて筆を取りました。

私のこと、おぼえてる？

お久しぶりです。手紙、ありがとう。嬉しかったです。私は元気です。

こちらはもう雪です。こんなに雪が降るなんて思ってもいなかった。おかげで読書が進みます。どこに行くのでもなく、ただ学校の図書館で本を借りて読む。そんな学校生活。あなたと一緒にいた頃には想像もできなかった。ねえ、知ってる？ 世の中には信じられないくらい数の本があるんだよ。この図書館にある本は、世界が持っている本のうちのほんの一部なんだって思うと、寂しくなる。読んでも読んでも次々と新しい本が積み上げられ、私が知らない世界が増えてゆく。怖いよ。

昨日、図書カードにあなたの名前を見つけました。あなたのことを忘れたことはありません。この先も忘れることはないでしょう。いつかまた会えたらいいね。